スマトラ沖地震・津波 被災地福祉支援ニュース

ホームページ版　No.5

2010年3月

社会福祉法人
全国社会福祉協議会（国際部）
〒100-8980
東京都千代田区霞が関3-3-2
新霞が関ビル
TEL: 03-3592-1390
FAX: 03-3581-7854

地震・津波から5年 被災地の復興に向けた福祉支援

～現地視察を実施～

2004年末、インド洋沿岸諸国に未曾有の被害をもたらしたスマトラ沖地震・津波。

全国社会福祉協議会(以下、全社協)では、全国の福祉関係者からの募金をもとに、インドネシア・スリランカ・タイの被災地で活動する全社協・アジア社会福祉従事者研修修了生所属団体等とのパートナーシップをもって復興に向けた継続的な生活支援を実施してきました。

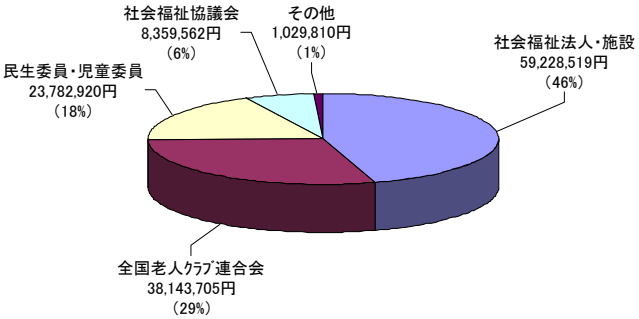
5年計画での助成が最終年次を迎え、この度、スマトラ沖地震被災地福祉支援委員会委員による現地の視察を行いました。

活動の終了を間近に控えた3か国の取り組みについてご報告します。

募金報告

関係者皆様のご協力に心から感謝申しあげます。

■総　額　130,544,516円
■件　数　7,647件（※1）
■期　間　2005年2月～2008年3月



（※1）全国老人クラブ連合会からの大口拠金は1件として算出

現地視察の概要

タイ・スリランカ　コース

■視察者（敬称略）

高岡　國士　全国社会福祉施設経営者協議会　会長
大塩　孝江　全国母子生活支援施設協議会　副会長
冨田　達雄　栃木県社会福祉協議会　事務局長
秋山　　隆　全国老人クラブ連合会　政策委員会幹事長

■日　程　2010年2月8日～13日（6日間）

インドネシア　コース

■視察者（敬称略）

櫻井　正弥　全国民生委員児童委員連合会　副会長
菊池　繁信　全国保育協議会　副会長
三上　智代　全国保育士会　副会長（※2）

■日　程　2010年2月15日～18日（4日間）

（※2）全社協・国際社会福祉基金委員会委員。その他6名はスマトラ沖地震被災地福祉支援委員会委員（一部基金委員兼務）

タイ

移民、母親への地域に根ざした生活リハビリテーション

ホルト・サハタイ財団（スクサムラン郡）

事業概要

（敬称略）

国名	**タイ**
団体名	**ホルト・サハタイ財団**　（以下、サハタイ財団）
本部所在地	バンコク
責任者	常務理事　ジンタナ・ノンタポウラヤ
担当修了生	オンサクル（2期生）、スパワディー（21期生）
事業名	「津波で被災した家族と子どものための 生活復興リハビリテーション・プログラム」
活動地	ラノーン県スクサムラン郡

ｵﾝｻｸﾙさん

ｽﾊﾟﾜﾃﾞｨｰさん

ミャンマー移民の多く住む被災地スクサムラン

ラノーン県はプーケット島から北に約200km、海に面しミャンマーとの国境を有します。ここラノーンのスクサムラン郡では、人口約1万人のうち2千人ほどが津波の被害を受けたそうです。貧困なこの地域にはミャンマーからの移民が多く、その大半はタイ国籍をもたないことから政府の援助の対象から漏れました。被災から5年、ビーチは旅行客で賑わい津波の被害は目には見えませんが、住民の生活へのダメージは大きく今なお多くの課題があります。

主に漁業をなりわいとするこの海を巨大な津波が襲いました。

センターは、グループワークなどの各種活動、また地域住民の集いの場として利用されてきました。

センターに寝泊まりして支援活動を継続

サハタイ財団は被災当初からスクサムランに入り、地域に根ざした復興支援に携わってきました。初めは仮事務所から車で1時間かけ支援活動を行っていましたが、2006年からは地元小学校の敷地を借りて建設した「スクサムラン・コミュニティ・センター」を拠点としています。修了生スパワディーさんはこのセンターに寝泊まりしてこれまで勤務にあたってきました。

活動紹介①：子育てを中心とした母親支援

母子家庭、乳幼児家庭の母親を中心に、センターでのケースワーク・グループワークや定期的な家庭訪問を通じて、子どもの栄養補給や衛生状況の改善啓発、子育てに関する相談支援などを行っています。また、開業資金の補助や技術指導により、食品販売などの仕事の支援もしています。視察では、津波で夫を亡くしてからサハタイ財団の小口貸付を利用し自営業を始めた母親の家庭を訪問しました。

お菓子や日用雑貨などを売って生計を立てています。スパワディーさんは子どもにベビーパウダーを塗っていました。

基金は現在12万バーツ（約35万円）ほど。グループによる自主的な運営ができるようになりました。

活動紹介②：移民女性による相互扶助組織の支援

ミャンマー移民の多くは当初タイ語での読み書きや計算ができなかったことから、物を売る簡単な仕事も始められませんでした。サハタイ財団はタイ語教室や経営のノウハウの支援などを行うとともに、基金をもとに資金を融通し合う相互扶助グループの組織化に取り組んできました。メンバーは毎日1バーツ（約3円）を積み立て、仕事のほか医療や買い物など必要に応じて貸付を受けることができます。

活動紹介③：困難ケースへの支援、行政への取り次ぎ

視察で訪問した家族5人は、4人に心身の障害があるなか公的な支援を受けず、劣悪な衛生環境で生活をしていました。サハタイ財団は彼らの衣食住を整え、障害年金の受給や通院の支援などを行いました。こうした今後も継続的な支援が必要と見込まれる困難ケース10件あまりは、財団の働きかけにより地域の行政が引き継ぐことが確認されています。

サハタイ財団が
建設を支援した新しい家

以前まで暮らしていた家

センターの引き継ぎ式を終え、サハタイ財団、カンプアン小学校の関係者や生徒たちと記念写真。

センターは今後も地域のために

サハタイ財団は助成終了にともないスクサムランを引き揚げます。センターは今後も有効に使われるよう、建物は土地提供元の小学校に移譲され、図書館や住民の集会所として地域のために利用されることとなりました。被災地からの帰路、すでに撤退した各国NGOの建てたセンターが今は使われず空き家となっている光景が各所に見られましたが、修了生オンサクルさんは「私たちはセンター建設時から引き揚げ後を見据えて地域との関係を築き上げてきた」と活動の意義を話していました。

スリランカ

子どもの教育・保育を中心とした開発活動

ネセック財団（ヒッカドゥワ市）

事業概要

（敬称略）

国名	**スリランカ**
団体名	**ネセック財団**
本部所在地	カダワタ　※コロンボ近く
責任者	理事長　シーラガマ・ウィマラ
担当修了生	ペレーラ（10期生）
事業名	「スリランカ南部における津波被災者の経済、能力開発およびライフスタイル強化事業」
活動地	ゴール県ヒッカドゥワ市

ﾍﾟﾚｰﾗさん

ヒッカドゥワにコミュニティ・センターを建設

マリンスポーツで有名なリゾート地、南部のヒッカドゥワ地区を津波が襲い、死者4千人以上という国内最大級の被害が出ました。コロンボ近くに複合施設をもつ仏教による福祉団体ネセック財団は、この地の寺院の敷地に「ヒッカドゥワ・コミュニティ・センター」を建て、災害直後の緊急援助や仮設住宅の建設など、被災者のくらしの総合的な支援を進めてきました。

ヒッカドゥワ・コミュニティ・センターは、事務所と集会などを行う多目的スペースから構成されています。

ネセック財団の建設した幼稚園。異年齢の25名を一間で2人の女性教諭が指導しています。

図書館で絵本を好んで読む子どもたち。パソコンも2台備えられていました。

子どもの教育・保育活動を重点的に展開

生活基盤の整備に目途がついた今は、被災で失われた、子どもの教育環境の向上に特に力を入れています。各地の寺院と連携し敷地に仮小屋の幼稚園の建設を行ったほか、学齢児童への奨学金の支給、教師の給与補助、図書館への書籍の寄贈などを行ってきました。

被災地の復興に向けた様々な生活支援

子どもの教育・保育の他にも、聴覚障害者の職業支援センターの建設を後押ししたり、貧困世帯に家庭菜園の啓発を行い家計の状況の改善を図るなど、被災者の生活の質の向上を目指して多様な支援活動を行っています。各種活動や建設した幼稚園舎などは地域の寺院に引き継がれ、今後も続けられていく予定です。

ネセック財団が支援する聴覚障害者の職業センター。ミシンを使って作った服は地域の人々に好評です。

タイ・スリランカ コース　視察委員の声

（敬称略）

委員長　高岡 國士　全国社会福祉施設経営者協議会　会長

資金を渡し建物を作って終わりというような援助ではなく、長年のアジア社会福祉従事者研修によるネットワークを活かし継続的な支援を図ったことに本事業の意義があります。全国の社会福祉関係者の皆様からの募金が、被災者の生活支援という本来の目的だけでなく、こうしたネットワークの促進など他の効果も生み出していることを実感しました。地域に根ざした開発から日本人が学ぶことは多く、現地に行くということの意味は大きいと改めて考えさせられました。

監事　大塩 孝江　全国母子生活支援施設協議会　副会長

サハタイ財団（タイ）の活動はソーシャルワークの実践そのものであり、住民のエンパワメントや相互扶助のシステムが確立されていたことに特に感銘を覚えました。両国の修了生から聞きましたが「全社協はお金を出すが、活動は地域に合ったものを自分たちで考えて行うよう言われた」という話が印象に残っています。本事業は金銭的な援助が実を結ぶための人材支援が継続して行われてきた結果であり、その重要性を実感しました。

委員　冨田 達雄　栃木県社会福祉協議会　事務局長

タイのセンター引き渡し式での修了生オンサクルさんの涙声は、彼女たちがいかに心血を注いで活動していたかを思い浮かばせるもので、大変印象に残りました。スリランカについては、助成が終了することで復興活動が低下することをどうしても懸念してしまいます。本事業で培われた全社協と被災地住民の関係、これは日本とスリランカの関係といっても過言ではないかと思いますが、今後更に発展させていくことができればすばらしいことであると考えます。

委員　秋山 隆　全国老人クラブ連合会　政策委員会幹事長

募金事業には、ともすると末端まで行き渡らない、また何に使われたかわからないということがあろうかと思います。本事業では真に必要とする人に活用されるべく、信頼できる団体を通じて計画的に支援されており、そこには大きな意義があると考えます。私たち老人クラブ会員の被災者支援への熱き思いが適切に現地に届いていることを確認、実感できました。

インドネシア

最大の被災地の復興と自立に向けて

ヤヤサン・ウサハ・ムリア（バンダ・アチェ市）

事業概要

（敬称略）

国名	**インドネシア**
団体名	**ヤヤサン・ウサハ・ムリア**　（以下、YUM）
本部所在地	ジャカルタ
責任者	会長　オルヴィア・レクソディポエトロ
担当修了生	ワワン（19期生）、ワスジャント（13期生）
事業名	「アチェ・コミュニティ・センター事業 ～被災地における国内避難民への社会福祉支援～」
活動地	ナングロ・アチェ州バンダ・アチェ市

ﾜﾜﾝさん

ﾜｽｼﾞｬﾝﾄさん

最大の被災地バンダ・アチェの今

スマトラ島の西端、震源に最も近いバンダ・アチェは、死者12万人以上という甚大な被害を受けました。国内で最も敬虔なイスラム教徒の住むこの地は、70年代から「自由アチェ運動」が政府からの独立を求め、内戦が続いていたことでも知られています。市中心部には各国の政府やNGOの支援により建設された住居が並び復興の進みが感じられましたが、YUM関係者によれば、水道が十分に整備されていないなど、いまだ問題は多くあるそうです。

被災直後からバラック（仮小屋）、その後住居の建設が進み、3年ほどで現在のように整備がされたそうです。

アチェ・コミュニティ・センターは海岸から2kmほどの集落の中にあります。

子ども・家庭福祉センターは地区庁舎に隣接しています。

活動の拠点
コミュニティ・センター

YUMは、倒壊を免れた物件を賃貸して開いた「アチェ・コミュニティ・センター」を拠点に被災当初から支援活動にあたってきました。2009年には地元行政から提供された土地に「子ども・家庭福祉センター」を建設し、各種活動や地域住民の集いの場として利用しています。

活動紹介①：小口貸付による職業支援

被災で仕事を失った人々に小規模事業を始めるための資金を貸し付けています。今回の視察では、魚や野菜の販売、カーテンやドレスの縫製で生計を立てる利用者を訪問しました。活動地の1世帯の平均収入は日本円にして1万円強だそうですが、貸付額は最初は約1万円、返済できれば3万円、5万円と増やし事業の拡大を支援しています。利用者は5年間で約90名、貸付実績は200万円を超えます。

魚売りのディンさん（写真中央）は貸付により津波で流されたバイクや台車を買い直しました。

オレンジ色の服が保育士。室内外に遊具があり、子どもたちが毎日楽しく過ごしている。

活動紹介②：センター保育所の運営

センターを利用し、共働きの貧困家庭を対象にした保育所を運営しています。1～5歳の子ども約20名が毎日8～15時で利用しており、利用料は日本円にして約1千円です。YUMや関係NGOの指導を受けた保育士が4名勤務しており、医師やセラピストなど関係専門職とも連携して、子どものケアや母親に対する子育ての指導などを行っています。

活動紹介③：子どもの才能・創造性開発

主に中高生を対象に、アチェの伝統舞踊や音楽、スポーツなどの活動を行っています。地元文化の奨励とともに、被災で大切な人を亡くした子どもの心のケアをコンセプトとしています。視察の際、舞踊・音楽を披露してくれた「フマイラ・スタジオ」（グループ名）は今では知名度が上がり、島内の各種イベントに招かれるようになりました。被災当初は暗く沈んでいた子どもも、仲間とふれあうことで活気を取り戻してきたそうです。

30名ほどが所属し週2回活動しています。メンバーは「全国にアチェの文化を広めたい」を目を輝かせていました。

視察と合わせて行われたセンターの移譲式には、PKKの他、地域住民、行政関係者などが参席しました。

地域が主体となっての復興活動へ

YUMは助成が終了する今年、バンダ・アチェを撤退しますが、今後も地域が自立してこれまでの福祉・開発活動を続けていけるよう、地元のNGOやボランティアなどの人材育成、公私様々な社会資源のネットワーク化など、引き継ぎの準備を進めてきました。センターは地域の各村の代表女性から構成される民間団体「PKK」に移譲され、行政のバックアップのもと、これからも被災前の生活をとり戻すための地域活動が展開されていきます。

インドネシア コース　視察委員の声

（敬称略）

副委員長　櫻井 正弥　全国民生委員児童委員連合会　副会長

「フマイラ・スタジオ」の子どもの舞踊・音楽には地域の偉大さが表れており、アチェの復興の礎になり得るエネルギーを感じました。ワワンさん、ワスジャントさんをはじめとする修了生の活動は、助成金額以上に国の福祉にプラスの効果をもたらしています。この活動が、与える福祉ではなく人々の力を引き出せる福祉になっていることに心を打たれるとともに、敬意を表したいと思いました。

委員　菊池 繁信　全国保育協議会　副会長

小口貸付プログラムにはじまるように、日本と比べて、また被害の規模からすれば決して多いとはいえない金額がそれ以上の大きな効果・価値をもたらしており、まさにお金が「生きて」いるということを実感しました。助成が終わったら引き揚げというだけでなく、地域を育て、活動を次につなげていくというプロセスには見習う部分が多くあると感じます。

三上 智代　全国保育士会　副会長　※全社協･国際社会福祉基金委員会委員として参加

短い日程の中、たくさんの人々のあたたかさに触れました。子どもたちが元気で笑顔がまぶしく、将来に希望が持てるようになったこと。研修生の活躍がすばらしかったこと。そして、日本からの善意がしっかりと生き、根づいて、自分たちの力で歩いていこうとしていること。多くのことを学んだ視察でした。

おわりに ～アジアの福祉分野での協力関係の促進に向けて～

本事業では、大切な募金を被災者の支援へと有効につなげるため、顔が見え、信頼できるパートナーとの密な連携のもとに活動を進めてきました。

また、単発な援助に終わらせず、限られた地域であっても地道に継続的な取り組みを図ったことにも、重要な意義があると考えています。

募金をお寄せいただいた全国の社会福祉関係者の皆様に改めて深く感謝するとともに、今後とも、全社協の取り組むアジアの福祉分野での協力関係の促進にご支援とご協力をよろしくお願いします。

スマトラ沖地震被災地福祉支援委員会　委員一覧

（2010年3月現在、敬称略）

委員長	高岡　國士	全国社会福祉施設経営者協議会	会長
副委員長	櫻井　正弥	全国民生委員児童委員連合会	副会長
監事	大塩　孝江	全国母子生活支援施設協議会	副会長
委員	仁田ミチ子	全国身体障害者施設協議会	副会長
	菊池　繁信	全国保育協議会	副会長
	御子柴智義	全国厚生事業団体連絡協議会	副会長
	冨田　達雄	栃木県社会福祉協議会	事務局長
	熊谷　和正	（公社）全国老人福祉施設協議会	業務執行理事
	秋山　　隆	（財）全国老人クラブ連合会	政策委員会幹事長
	川井　一心	全国社会福祉協議会	常務理事
	松寿　　庶	全国社会福祉協議会	理事

スマトラ沖地震福祉支援活動事業の要点

- 2004年12月26日にインドネシア・スマトラ島西方沖で発生したM9.0の地震とそれに伴う津波の被災者の生活復興支援を目的とする。
- 全国の社会福祉関係者による募金を財源として、インドネシア・スリランカ・タイの各被災地で支援活動に取り組む民間団体への助成を行う。
- 助成は、信頼でき連携を図れる団体として、アジア社会福祉従事者研修（下記参照）の修了生所属団体を中心に実施する。
- 被災地に支援活動の拠点としてコミュニティ・センターを建設・設置する。
- 被災者の生活に寄り添った中期的・継続的な福祉活動を、5年計画で支援する。
- 助成の実施など事業運営については、募金提唱団体の代表者から構成される「スマトラ沖地震被災地福祉支援委員会」で審議を行う。

アジア社会福祉従事者研修について

- アジア各国より民間の福祉従事者を毎年招聘し、日本語学習の後に社会福祉現場での体験実習を行っている。
- 研修は1984年に開始。2009年の第26期までに、韓国・台湾・フィリピン・タイ・マレーシア・スリランカ・インドネシア・バングラデシュの8か国計126名が研修を修了し、その多くが母国の福祉分野で活躍している。
- 日本での研修実施による人材育成とともに、研修修了生を中心としたアジアの福祉分野におけるネットワークの充実を目的とする。
- 研修の実施、修了生の支援にかかる費用は、全国の社会福祉関係者の募金による「国際社会福祉基金」から拠出する。

助成一覧

（単位：千円）

国	助成先団体		助成額					
			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	計
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	修了生所属	ﾔﾔｻﾝ･ｳｻﾊ･ﾑﾘｱ	8,000	12,840	7,400	10,300	3,600	42,140
ｽﾘﾗﾝｶ	修了生所属	ﾈｾｯｸ財団	9,850	3,000	3,360	2,820	2,600	21,630
ﾀｲ	修了生所属	ﾎﾙﾄ･ｻﾊﾀｲ財団	21,000	5,000	7,900	3,200	3,100	40,200
ﾀｲ	日本NPO	幼い難民を考える会（CYR）	2,500	1,000				3,500
ﾀｲ	日本NPO	ｼｪｱ=国際保健協力市民の会	3,000	1,000				4,000
計			44,350	22,840	18,660	16,320	9,300	111,470

（※）募金と助成との差額は、募金経費や広報などの事務運営費に充当